日本語母語話者とドイツ語母語話者の日本語接触場面における「依頼の断り」
ー連鎖組織と言語形式に注目してー

市来　海唯（大阪大学大学院生）

1.　はじめに

会話の場面は，そこで使用されている言語がすべての会話参加者にとって母語である母語場面と，その言語の母語話者と非母語話者がともに会話に参加している接触場面の二つに分けられる（ネウストプニー，1981）．武田（2006： 13-14）によると，接触場面には，会話参加者たちが互いに意図する配慮言語行動が意図通りに作用しない可能性や，誤解される可能性がある．このような誤解ができるだけ生じないように，今後も接触場面研究を発展させていく必要があると考える．

本研究では，依頼の断りの場面を対象に，日本語母語話者同士の日本語母語場面と日本語母語話者とドイツ語を母語とする日本語学習者の日本語接触場面おける連鎖組織の特徴を見出し，それぞれを対照することを目的とした．その背景には，ドイツ語を母語とする日本語学習者の日本語使用に関する研究が進んでいない現状（村田，2017）や，勧誘や申し出の断りと切り離して，依頼に対する断りを個別に取り上げている研究が少ないことがある．この目的を達成することで，日本語教育の観点から，ドイツ語を母語とする日本語学習者の日本語接触場面における依頼の断りで直面する問題を想定することに繋がり，その解決策を見出すための一端を担うことができると考える．

2.　先行研究

断りとは，「相手から自分に向けられた期待や好意に添えないことを伝える言語行動」（尾崎 2006：88）であり，日常的に使用する基本的言語行動の一つである．堀江（1995：76）は，断る者は，「どう断れば相手のメンツをつぶさずにうまく断ることができるか，その相手との従来の関係を維持することができるのかなどに心を砕かなければならない」と述べている．日本語母語話者における断りとその他の言語における断りの対照研究はすでに数多く存在する（元，2005；Poonvongprasert，2019 など）一方，日本語母語話者と日本語学習者の日本語接触場面における依頼の断りに関する研究は極めて少ない．また，先行研究では談話完成テストを用いたものが多く，実際の音声データを扱っているものは十分でない．さらに，依頼の断りの会話の構造について，言語形式を含めて分析している研究は管見の限り見当たらない．

3.　研究方法

3.1 データ収集方法

調査協力者は，日本在住の日本語母語話者 40 名（男性 19 名，女性 21 名）と，留学目的で日本に滞在中のドイツ語が母語の日本語学習者 8 名（男性 5 名，女性 3 名）の計 48 名であり，いずれも 10 代から 20 代の大学生あるいは大学院生である．日本語学習者はいずれも，中級以上の日本語能力を有している．調査対象者を選定できることや分析対象の発話行為が実現する場面を設定できることから，発話データの収集にはロールプレイ（以下，RP）を用いた[1]．なお，RP の限界として，自然会話との違いが挙げられるが，より自然会話に近い状況にするために，被依頼者側のロールカードには，依頼されるという展開と依頼を断るという指示を示していない．そのため，断りが行われないデータもあったが，本研究は断りが達成されたデータを分析対象とする．

RP の場面は，労力のかかる 3 つの依頼に設定した．それぞれ，①卒業論文のためにインタビュー調査を依頼されるが，日程的に都合が合わない，②アルバイトのシフト交代を依頼されるが，その日は既に友人との予定が入っている，③英語のレポートの添削を依頼されるが，期日までにまとまった時間が確保できない，という場面である．会話参加者の関係性を社会的地位が同等である者同士の設定とし，親疎関係による断りの異同も調べるため，友人／知り合いという親疎の異なる 2 種類の会話を収集した[2]．

---

[1] 調査協力者と調査者が遠隔地にいる場合があり，その場合には協力者自身による音声の録音を依頼したため，録画は行えなかった．しかし，音声データのみでも連鎖組織や言語形式の分析に大きな支障がでないと判断し，筆者同席の場合にも条件を揃え，音声のみ収集した．

[2] 本発表では，親疎による比較は行わない．

3.2 分析方法

本研究では，「依頼の断り」を，施（2005：45）を参考にし，「依頼を受けたあとから，その話題が終わるまでの，断る側がとる一連の言語行動」と定義する．そして，「断り」を発話という単位ではなく，会話参加者同士の相互行為として捉える立場を取るため，分析には会話分析の手法を用いる．

依頼の断りの会話の構造を分析するにあたって，会話参加者たちのすべての発話を行為として捉え，断りが達成された会話を構成している連鎖組織の抽出を試みる．本研究では，被依頼者による【断りの事情説明】あるいは【断り】，および依頼者による【断りの承認】が見られたデータを断りが達成されたとし，これらに【依頼】を加えた，3 ないし 4 種類の発話機能を，依頼の断りというやりとりが成立するために必須の要素と捉え抽出を行う．その後，連鎖組織内の【断りの事情説明】と【断り】の言語形式の特徴を分析する．また，連鎖組織や言語形式について，日本語母語場面と日本語接触場面でどのような異同が見られるかをそれぞれ考察する．

4. 結果と考察

4.1 連鎖組織

本稿では，RP の場面ごとに区別せず，全体的な分析結果について論じていく．分析の結果，日本語母語場面と日本語接触場面において，最も多く見られた連鎖組織に違いがあった．それぞれの連鎖組織を〈1〉，〈2〉とすると，日本語母語場面では 18 データ中 15 データが〈1〉に，日本語接触場面では 18 データ中 8 データが〈2〉に分類された．それぞれの構造と特徴を，図と発話データの断片を用いて説明していく． 図 1 は，〈1〉と〈2〉の連鎖組織を示しており，A が依頼者を，B が被依頼者を表している．なお，被依頼者による【断り】の位置に注目して分析を行ったため，図の中の【断り】に網掛けをしている．また，断片では J が日本語母語話者，G がドイツ語を母語とする日本語学習者，A が依頼者，B が被依頼者を表し，各会話参加者に番号を割り当てている．

図 1　今回のデータに見られた連鎖組織

まず，〈1〉について，RP②における断片 1 を用いて説明する．断片 1 は，JA1 が【依頼の前置き】と【依頼の事情説明】によって，JB2 に依頼の意思の表明と内容の提示を行なった後に続く会話である．JA1 が【依頼】を行うと，JB2 は【断りの事情説明】を行い，JA1 から【事情理解】を得たところで【断り】を行う．そして JA1 が【断りの承認】を与えることで，断りが達成されるという展開をもつ．15/18 データにこの構造が見られたことから，日本語母語場面の断り会話は，連鎖組織〈1〉によって行われる傾向があると言える．つまり，日本語母語話者同士の依頼を断る会話において，被依頼者は【断りの事情説明】から始め，依頼者の【事情理解】を得てから【断り】を行う傾向があるということである．

〈断片 1：RP 場面②〉

01JA1:もしよかったらあのバイ-あ(.)バイトの交代[してもらいたい[なって思う　【依頼】
02JB2:　[あ:::　[らい-<u>来週土曜</u>::はね:°ちょっと予定あって:,°　【断りの事情説明】
03JA1:あそうです[か.　【事情理解】
04JB2:　[うん.代われない.　【断り】
05JA1:あ::わかりました.ちょ(.)また他の人:に:(.)伺ってみようと思います.　【断りの承認】

次に，〈2〉について，RP②における断片 2 を用いて説明する．断片 2 も，断片 1 と同様，JA3 が【依頼の前置き】と【依頼の事情説明】を行なった後に続く会話である．JA3 が【依頼】をすると，GB4 はまず【断り】を行う．2 行目は発話冒頭にためらいを表す「いや:」が使用されていることに加え，「ちょっと」を強調するように全体に大きな抑揚があり，相手を非難，拒絶するような音調で発話されていたため，【断り】として機能していると判断した．GB4 の【断り】に対し，JA3

は3行目で笑いによって【断りの受け止め】を示す．しかし，【断りの受け止め】は【断りの承認】ではないため，必然的にGB4は【断りの事情説明】を期待されることとなり，4行目から13行目にかけて行っている．それに対してJA3が【事情理解】を示すと，GB4は再び【断り】を行い，JA3の【断りの承認】を得て断りを達成させるという構造である．すなわち，【依頼】の後，被依頼者は【断り】から始め，依頼者に【断りの受け止め】を示されてから【断りの事情説明】を行い，【事情理解】が得られると再度【断り】を行うパターンである．

〈断片2：RP場面②〉

01 JA3：そう.(1.2)もし(.)よければ来週の:土曜日の夜空いてれば:,(0.4)シフト:変わってほしいな:って思うんだけど　【依頼】
02GB4：いや:それはちょっと:.　【断り】
03 JA3：hhhh　【断りの受け止め】
04GB4：hh(0.4)実は::(0.3)あのね?(0.8)えっと::来週-来週の:,[土曜日ですが:,　【断りの事情説明】
05 JA3：　[うん.
06.　うん.
07　(0.5)
08GB4：えっとほくわ-他の友達と:,
09 JA3：うん.
10　(0.5)
11GB4：だ-レストランに行く予定があって:,
12 JA3：あ
13GB4：もう予約しちゃった[(.)¥か]ら¥ちょっ(.)と[::
14 JA3：　[あ:]　[°まじか.°　【事情理解】
15　(0.6)
16 GB4：う::ん(.)ごめん.hh　【断り】
17 JA3：あ:(0.6)そっか::(0.7)じゃちょっと別の:(0.7)人に:当たってみるわ.　【断りの承認】

図1に示したように，被依頼者の【断り】は，日本語母語場面では依頼の後の〈【断りの事情説明】－【事情理解】〉が挿入されてから行われているのに対し，日本語接触場面では【依頼】の直後と挿入拡張の後の二度行われていることがわかる．その要因の一つとして，日本語学習教材の影響の可能性を挙げる．調査協力者である日本語学習者の8人中6人は，初級レベルのとき，『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）を使用して日本語を学習していた．この教材で「断り」が導入されている会話（Ⅰ： 75，Ⅱ:19）において，【断り】は【断りの事情説明】より前に行われている．さらに，その【断り】の言語形式は「Nはちょっと…」である．つまり，〈2〉が多く見られたのは，日本語学習者が学習した方法で断りを実践した結果である可能性が考えられる．

4.2 言語形式

次に，抽出された連鎖組織〈1〉と〈2〉において，被依頼者の【断りの事情説明】と【断り】が共通して見られる発話であることから，依頼を断る際に必須となる発話機能だと考え，それぞれの言語形式を取り出し，日本語母語場面と日本語接触場面における相違点について，用法と音調の観点からそれぞれ分析，考察を行う．

日本語母語場面と日本語接触場面のそれぞれで用法が異なっていた言語形式として，「ちょっと」および「けど」「が」を挙げる．日本語母語場面では，【断りの事情説明】や【断り】の中で，「ちょっと」がヘッジや間つなぎに用いられていたが，日本語接触場面では，ヘッジに使われる他に，【断り】として，相手に対して否定的な意思を表明するために用いられていた．このときの形式はすべて，「Nはちょっと…」という言いさしの形式であった．『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』8課や28課で導入されるこの表現は，断りの意思を遠回しに伝えるために使用できると説明されているが，今回のデータの日本語母語場面では使用が見られなかったことから，今回のような労力のかかる依頼に対する断りにこの形式が用いられることは少ないと考えられる．また，依頼者である日本語母語話者は「Nはちょっと…」から断りの意図を把握できなかったためか，ターンの移行が円滑に行われない場面も見られた．これは，断片2からも見て取れる．2行目でGB4が「いや:それはちょっと:.」と言うと，JA3は笑いによって反応を示すものの，発話は行わず，ターンをとらなかったことから，4行目でGB4は発話を続けることになっている．

「けど」について，日本語母語場面では，【断り】の「全然違う日やったら（だったら）:,(.)代わんねんけど:.（代わ

るんだけど)[3]」といった発話の中で見られ，提示された日の依頼は引き受けられないことを婉曲的に示すために使用されている．このときの語尾の音調は，音が下がって区切りがついていた．一方，日本語接触場面では，「けど」に加えて「が」についても，【断りの事情説明】と【断り】の中で用いられていた．例えば，【断りの事情説明】において「他の友達に聞いてみるかもしれませんけど,」「約束があるんですが,」「予定がありますが,」といった発話がある．これらの発話における「が」の音調は少し下がって弾みがついており，中には強勢が置かれるデータもあった．そのような音調で発話された場合，依頼者は「けど」及び「が」が逆接のように聞こえ，被依頼者の発話がまだ続くと推測すると考えられる．しかし，被依頼者は発話を続けようとする様子は窺えず，沈黙が見られるなど，ターンの移行が円滑に行われていなかった．つまり，被依頼者の意図通りに発話が機能していない可能性が示唆される．具体例として断片 3 を挙げる．JA5 が依頼内容を詳細に提示しない段階で行なった【依頼】に対し，GB6 は一度【承諾】を示す．断片 3 の【承諾の確認要求】は，JA5 が GB6 の【承諾】に対して詳細な情報を説明した後に続く会話である．2 行目の GB6 の発話に注目したい．「今週は少し予定ありますが」という発話で事情を伝えることにより，婉曲的に断りの意向を示そうとしているが，「が」の音調に強勢が置かれ，少し下がって弾みがついているために，逆接のように聞こえてしまっている．「が」の後の内容から，それが逆接ではないことは明らかである．GB6 の発話は全体的に言い淀みが多く発話の区切りが見えづらいが，沈黙や文節の区切りで JA5 がターンを取ることは可能だと考える．それでも 3 行目の「**少し無理<そう**」が発話されるまで JA5 が発話しなかった要因に，「が」のイントネーションが関連している可能性を指摘したい．

〈断片 3：RP 場面③〉

01JA 5：**大丈夫そうですか:？** **【承諾の確認要求】**

02GB6：**あ**::(.)**実は**::(0.3)**今週は**:,**えと**:(0.5)**少し予定が**(.)**あります** ss **が**:,**た**(h)**く**(h)**さ**(h)**ん**(h)**あ**(h)**り**(h)**ま**(h)**す**(h)**が**:(h),**えと**:(1.0)**え**:

03 **と**:(0.4)s(0.3)**あ**:**少し無理<そう**[**ですが**:.> **【断りの事情説明】【断り】**

04JA5： [↑**あ**::**そうですか**:: **【断りの承認】**

5. おわりに

本研究では，日本語母語場面と日本語接触場面における依頼に対する断りの言語行動について，ロールプレイデータを用いて分析し，【断り】の位置に着目して核となる連鎖組織の抽出，分類，及び断りに関する言語形式の考察を行った．分析の結果，日本語母語場面と日本語接触場面では，連鎖組織における断りの位置や，断りに関する言語形式の用法に違いが見られた．要因として，日本語学習教材による影響の可能性を挙げた．また，言語形式の分析では，日本語学習者がある用法を適切な音調で使用できていないことによる，コミュニケーション上の問題の可能性を指摘した．今後は，今回詳細に扱えなかった親疎関係による異同について分析を進めていきたい．

参考文献

堀江インカピロム・プリヤー（1995）．依頼表現の対照研究―タイ語の依頼表現 日本語学，14(11)，76-83.

熊井浩子（1993）．外国人の待遇行動の分析(2)－断り行動を中心にして－ 静岡大学教養部研究報告人文・社会科学篇，28(2)，226-266.

みんなの日本語初級Ⅰ第 2 版：本冊（2012）．スリーエーネットワーク

みんなの日本語初級Ⅱ第 2 版：本冊（2013）．スリーエーネットワーク

村田裕美子・李在鎬（2017）．ドイツ語話者の話し言葉コーパスの開発 Schriften der Gesellschaft fur Japanforschung Band2， 1-19.

ネウストプニー，J.V.（1981）．外国人の日本語の実態(1)外国人場面の研究と日本語教育 日本語教育，45，30-40.

尾崎喜光（2006）．依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現 言語行動における「配慮」の諸相 くろしお出版 89-114.

Poonvongprasert， Thanit(2019)．手伝うことの依頼の対する断りの日タイ対照研究－親疎関係・上下関係・依頼の負担度による意味公式の選択に関する分析－ 大阪大学博士論文

施信余（2005）．依頼に対する「断り」の言語行動について―日本人と台湾人の大学生の比較― 早稲田大学日本語教育研究，6，45-61.

武田加奈子（2006）．接触場面における勧誘応答の分析－勧誘者が被勧誘者の応答を断りと判断する要素－ 千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書，104，35-54.

元智恩（2005）．日韓の断りの言語行動の対照研究：ポライトネスの観点から 筑波大学博士論文

[3] RP 場面②の会話で，依頼者が「アルバイトの日程と行きたいライブの日程が重なった」と説明したことに対する返答.